

(別紙様式2)

## 学生等評価の改善状況報告書

平成26年 3月31日

評価会議議長 殿

教育学部長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成24年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成25年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
教育実習との関係で1年次、2年次に授業が集中している。そのため、下の学年は共通棟と教育学部棟を行き来しながら授業を受けることが多い。なるべく、専門基礎や教育法の授業を3年次、4年次に移すなど、学生が余裕をもって授業を受けられるように時間割を見直す。  実施時期（予定を含む）：一部は平成25年度実施。他は平成26年度以降。
改善状況
平成25年度入学生より四欄科目の初等用・中等用の分離を実施した。また、平成26年度入学生より卒業要件の単免化と教育実習時期を変更する。この卒業要件の単免化を受けて、平成28年度改革のカリキュラムとしての小学校免許教職課程、中・高等学校免許教職課程ごとの一層の充実を図る。特に実践的科目（教育実習プログラムと学校支援ボランティアプログラム）や学校教育の現代的課題科目の整備を図る。その際に、特定の学年に偏らないように、時間割のバランスなどに配慮する。
達成年度（予定を含む）
平成28年度改革に向けて検討中。平成26年度入学生から学年進行に伴い、時間割を調整しながら改善していく。

改善事項
学部生の英語教育
改善計画
<p>平成 23 年度からの小学校学習指導要領全面実施により、第 5 学年・第 6 学年に「外国語活動」が必修化された。教職に準ずる科目では、現場での取り組みに即した内容の授業科目が用意されており、例えば、小学校外国語活動論等において、教育活動に活かせる英語の能力を身に付けさせていく。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年度実施し、平成 26 年度以降改善。</p>
改善状況
<p>小学校外国語活動論等で受講生は教育現場の内容や指導法を身に付けている。平成 28 年度改革のカリキュラムにて、基軸教育科目、現代教養科目、教職等資格科目を設ける。基軸教育科目の「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、現代教養科目の〔学校教育の現代的課題等の入門科目〕の「小学校外国語活動論」、〔教科内容論と指導論の架橋科目〕の「中等教科内容指導論（各教科）」、教職等資格科目の「中等英語科教育法Ⅰ～Ⅲ」など、それぞれの科目を有機的に関連付けながら、学生の英語力を高めさせていく。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>平成 28 年度改革に向けてカリキュラムを検討中である。平成 26 年度入学生から学年進行に伴い、時間割を調整しながら改善していく。</p>

改善事項
学部生の初修外国語
改善計画
<p>初修外国語で身に付けた力を実際に活かすため、短期留学などを積極的に勧め、他国の文化や人々の生活を実感できる体験の機会を増やすための取り組みを試みる。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年度以降継続的に実施。</p>
改善状況
<p>グローバル化の状況の中で、積極的に海外留学を促している。また、附属学校を活用した中で、国際交流にも取り組んでおり、より実践の場で英語を活用できる機会を設けている。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>国際的な視野を広げさせ、英語を活用できる場を多く提供していく。学部のカリキュラムとしては、28 年度改革の時期において外国語の科目内容を充実させていく。</p>

改善事項
学部生の国際的視野（異分野理解・グローバルな問題の理解）
改善計画
国際経験豊かな教員たちによるプロジェクトを立ち上げ、留学を促すためのイベントの企画・実行や授業改善などを試みる。
実施時期（予定を含む）：平成25年度以降継続的に実施。
改善状況
ESD・国際化WGを立ち上げ、学部として国際化に向けたシンポジウム（インドネシア教育大学との教員養成シンポジウム、平成25年12月）やESD・ユネスコスクールに関する研修会（平成26年2月）を実施した。また、インドネシア教育大学（UPI）学生交流プログラムにて学生を参加させ、国際的視野を広げさせた。
達成年度（予定を含む）
平成26年度より、ESDに関連する科目をカリキュラムに導入し、国際的な視野を広げさせていく。学部のカリキュラムとしては、28年度改革の時期において国際色のある科目内容を充実させていく。

改善事項
学部生のリーダーシップ
改善計画
実地科目等において、学生が主体的に取り組めるような目標・内容を設定し、授業改善を図る。また、学生たちが主体的に地域での教育活動に取り組めるような機会の提供や参加を促す。さらに附属教育実践総合センターと連携し、学校ボランティア活動等への参加などを、学生に促す。
実施時期（予定を含む）：平成25年度以降継続的に実施。
改善状況
学校ボランティア活動等への参加を促している。一定期間の学校現場での体験機会の充実を図っている。今後、平成28年改革のカリキュラムで、学校教育の現代的課題科目の設定とパッケージ化を試み、カウセリング、国際理解教育、ICT教育、防災教育など、教科では指導できない内容に取り組む。教科に捉われない学びの中で、学部生のリーダーシップを培っていく。
達成年度（予定を含む）
平成28年度改革に向けて検討中である。平成26年度入学生から、学年が進行するごとに実施していく。

改善事項
大学院生の英語教育
改善計画
<p>教育学に関して幅広い知識を身に付ける上で、英語の文献を分析・考察できる能力が必要であり、大学院の授業（特に原論）や修士論文指導のあり方を見直していく。研究科委員会（WG 設置）において学生の英語力向上のための手だてを検討し、部内に示していく。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年度実施し、平成 26 年度以降改善。</p>
改善状況
<p>平成 28 年度の学部カリキュラムにて、「英語コミュニケーション I・II」、「小学校外国語活動論」、「中等教科内容指導論（各教科）」、「中等英語科教育法 I～III」を設け、それぞれの科目を有機的に関連付けながら、学生の英語力を高めさせていく。大学院ではそれを基礎とし、英語の文献の解釈等を通じて、英語力を高めていく。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>平成 28 年度改革に向けて検討中である。平成 26 年度入学生から、学年が進行するごとに実施していく。</p>

改善事項
教職の学級・学校のマネジメント能力
改善計画
<p>教職入門や教育実習における事前事後の学習の取り組みを見直していく。平成 25 年度より実施される教職実践演習において、学校現場の教育活動の参加を通して、知識やスキルを一層高めるための指導を行う。また、教職支援室との連携をはかり、経験豊富な教師の指導を受けるような体制づくりを整える。</p> <p>実施時期（予定を含む）：平成 25 年度実施し、平成 26 年度以降改善。</p>
改善状況
<p>平成 25 年度から教職実践演習等で、教師としての専門性やリーダーシップを発揮させている。特に、附属学校園における訪問実習では学級経営等を学ぶ機会を得ている。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>平成 26 年度も継続的に実施し、年度ごとに改善しながら成果を上げていく。</p>